

つまり、日本語くらいどんな言い方をしても正しく伝わる言葉はありません。ところが音韻が少ないために、日本人の耳ははっきりしたわずかの音韻しか聞き分けることができない耳になってしまいました。

音韻を聞き分ける聴力というのは、幼児期につくられます。ですから大人になって外国語を学ぼうとしても、とくに音韻の多い中国語は日本人には不可能といっていらい困難です。

私は青年期に六年間中国語を学習しましたが、結局ものにはなりません。耳がどうしてもついていけないのです。

中国語は1644種類の基本的な音韻をもっています。日本語は百いくつかで間に合います。中国ではその発音を聞き分ける耳を、幼児期から養っているのです。

ですから中国人の耳というのは私たちの耳とは全然違います。中国人は英語を学んでもドイツ語を学んでも、実に見事に聞き、しゃべります。これは聞き分ける耳が発達しているからです。

では、音韻の少ない日本人ではどうしたらいいかというと、これは耳の発達する幼児期に、外国語の豊かな音韻を耳から入れるしか方法はありません。耳さえつくっておけば、大人になってから外国語を学ぶ必

要が生じたときに、きっと役に立ちます。

ポイント:「馬」という字を教えるためには、父親が子どもをわざわざ牧場へ連れて行って、「これが馬だよ」と言ったという話を聞いたことがあるのですが、こういう教え方がいちばん効果があります。絵よりも実物を見せたほうがいいのは言うまでもありません。子どもの興味をそらさないような教え方をしないと、やがてそっぽを向くようになりますから、伸びないのです。